

27B 日帰り旅行サークル 〈平成30年の活動〉

【平成30年5月31日】

幹事：第3班（金子班長）

◆日光東照宮「陽明門」&華麗なる彫刻群 の日帰り旅行へ行ってきましたよ♥

日帰り旅行サークルでは、平成30年5月31日（木）参加者11名（女性7名、男性4名）でくれよんの世界遺産「日光東照宮『陽明門』&華麗なる彫刻群」ツアーに参加しました。V(^-^)^

<旅程>

新潟 BC(7:00)-新潟駅南口(7:15)-新津西口駅=<磐越道>=日光(名物ゆば御前の昼食)=日光東照宮(案内人付で国宝「陽明門」など見学)-日光(ショッピング)=<磐越道>=<各乗車>=新潟各地(20:10~20:25)

【旅のお楽しみ】

- ♥平成の大修理を終え美しくよみがえった世界遺産「陽明門（日暮れの門）」を堪能！
- ♥専門ガイドの案内で華麗なる彫刻群をじっくり見学！
- ♥日光四百年かりんとう&レモン牛乳のお土産付！

国宝 日光東照宮
「陽明門」&
華麗なる彫刻群

じっくり！
専門ガイドの
案内付！

世界遺産

日光東照宮「陽明門」
(イメージ)
※修理前の写真

日光四百年
かりんとう&
レモン牛乳の
お土産付！
(イメージ)

動物彫刻は必見！

国宝：眠り猫
(イメージ)

三猿(イメージ)

日帰り/大人 (小人500円引)
9,980円~10,480円



陽明門を階段下から見上げるポイントが、日光東照宮でのメインの記念写真撮影になります。

5月31日 旅行当日は、雨予報の曇天、気温は26度/16度と、さわやかな旅行日和。新潟交通バスセンターで、我々グループ5名が乗り、AM7:15にスタートした「くれよんバス」は、新潟駅南口で5名、さらに新津西口駅から最後の1名が乗り込み、参加者総勢11名、他の乗客と合わせて23名とゆったりとしたバスは、いざ、日光方面を目指し<磐越道>を快適に走りました。(^^)~ (今回は、バスが出発した瞬間に缶ビールを開けるプシュ〜っという音は聞かれませんでしたあ〜。)

【新潟から日光まで群馬沼田経由と福島会津経由、どちらが近く早い？】

会津若松市経由→約 230km、沼田市経由→約 290km。距離では沼田経由の方が多いが、高速

を使うので時間はほぼ同じくらいとか。でも、趣や癒しなどを考慮すれば、味気ない高速道より一般道が良いという皆さんの意見でした！

【会津若松から日光へ行くには高速道路と一般道のどっちが？】

＜高速で行く場合＞

会津若松－(磐越道)－郡山JCT－(東北道)－宇都宮IC－(日光道)＝日光IC－日光東照宮。
所要時間 2時間20分、距離 200km。

＜下道の場合＞

会津若松－(国道121号)－(県道247号線)で日光東照宮。所要時間 2時間40分、距離 120km。

下道は距離で80Km短く、時間も20分位しか違わなければ、高速代約4500円(ETCで約3300円)払うのはもったいないので、国道121号線がお勧めです。

この道路は、信号もあまりなく、空いているので、今度個人でも使ってみたい(紅葉の時期は最高とか)。

ということで、「くれよんバス」は南会津町から一般道を利用して日光へ向かいました。

会津坂下で磐越道を降り、一般道118号線へ。味気ない高速道と違い、周りを植田や果樹園に囲まれた長閑な街道を走ると何故か癒される。NHKラジオ第一放送の「昼のいこい」のテーマ曲(作曲：古関裕而)が聞こえてくるような、田んぼのあぜ道で遊んでいた頃が蘇ります。

芦ノ牧温泉から大内宿を右手に121号線(会津西街道)へ、湯野上温泉や塔のへつりを通り、南会津町のグリーンアスパラで有名な「道の駅たじま」でお土産&トイレタイム。奥会津方面を走ってからは、日光街道としての121号線で川治温泉そして鬼怒川温泉を通過し、昼食会場の「日光カステラ本舗」へ。

【ランチ会場】(日光カステラ本舗)

さて、ランチタイム。日光東照宮参りの前に昼食ということで寄ったのが

こちら・『日光カステラ本舗』⇒

日光東照宮に近い西参道にある団体向けドライブインですが、旅行社のツアー御用達のように、かなり大きなお店です。バス駐車場から下に降りると2階が団体向け昼食会場になっていて物凄い収容人数。外国人や修学旅行の小学6年生達など多くの団体が既に食事中でした。



日光といえば、ゆばがメインの精進料理。料理の器が大きく(写真)、蓋の置き場所に苦慮していたら『蓋は器の下に～！』との声。湯葉を使った色々なお料理を食べる機会はほとんどないので、かなり新鮮です。ごちそうさまでした～♪。



(写真)「ゆば御前」

栗おこわ・巻きゆばと煮物・さしみゆば・さしみこんにゃく・豆の華・きゃらぶき・胡麻豆腐もみじ
おろし添え・山ごぼうの梅肉和え・ゆばとしめじの煮びたし・香の物・ゆばこんにゃくの Pasta風
サラダ・ゆばスープ。

【ショッピング～日光カステラ（金箔入りカステラ）】

食後、出発時間まではお土産探しの楽しい時間です。

「日光カステラ本舗」は、メディアで話題のカステラショップです。1階が土産店になっていて、定番の日光カステラ、湯葉の商品など日光のご当地お土産がたくさんある。

人気の金箔入りのハニーカステラは試食させてもらえたが、口溶けふんわり、柔らかくほんのり甘く生地がしっとりしていて美味しかったです。



休憩後は、いよいよ国宝「日光東照宮」の見学だぁ～と表に出るとなんと無情な雨が…（残念）。貸傘を借りガイドさんの後ろについて歩く。日光東照宮の土日は非常に混むと覚悟していたが、平日雨天のせいかメインストリートでさえ観光客や車もまばらで拍子抜け。でも観光ハイシーズンの東照宮は、入場制限が行われることもあるそうです。

【日光観光のメインである「日光東照宮」拝観】

「日光東照宮」の社殿群は平成11年12月「世界文化遺産」に登録されました。さすが世界遺産、たくさんの外国人がいらっしゃっていましたよ～。

長かった平成大改修が終わり、陽明門がとてもキレイになっていて素晴らしかったです。

京都や奈良とは少し雰囲気が違うというかキンキンキラキラの豪華な感じ！



〔参考〕1999年、世界文化遺産に登録された。登録名は「日光の社寺」。

構成資産は、次の2社1寺に属する103棟の建築物群と周辺の景観遺跡です。

二荒山神社(ふたらさんじんじゃ)、東照宮(とうしょうぐう)、輪王寺(りんのうじ)

【東照宮 社殿の概要】

東照宮入口の石鳥居の前で専門ガイドさんと合流し、この鳥居を起点にガイドさんの分かりやすい説明を聞きながら拝観しました（団体ならではのガイドさんの説明は有り難い）。

石鳥居（いしどりい）

ご鎮座翌年の1618年、九州筑前（福岡県）藩主 黒田長政によって奉納された。石材は、まず九州から船で小山まで運ばれ、その後陸路人力でこの日光まで運ばれた。分割した石鳥居は、土のうを積んで組み立てたが、これはピラミッド建設と同じ技法とか。



五重塔（ごじゅうのとう）

慶安3年（1650）若狭の国（福井県）小浜藩主 酒井忠勝によって奉納された。文化12年火災にあったが、その後文政元年（1818）に同藩主酒井忠進によって再建された。



表門（おもてもん）

東照宮最初の門で、左右に仁王像が安置されているところから仁王門とも呼ばれている。



三神庫（さんじんこ）

上神庫・中神庫・下神庫を総称して三神庫といい、この中には春秋渡御祭「百物揃千人武者行列」で使用される馬具や装束類が収められている。また、上神庫の屋根下には「想像の象」（狩野探幽下絵）の大きな彫刻が施されている。



神厩舎・三猿（しんきゅうしゃ・さんざる）

神厩舎は、ご神馬をつなぐ厩。昔から猿が馬を守るとされているところから、長押上には猿の彫刻が8面あり、人間の一生が風刺されている。中でも「見ざる・言わざる・聞かざる」の三猿の彫刻が有名。



陽明門（ようめいもん）

日光東照宮の中で一番のメインである門は、なんといっても国宝にも指定されている「陽明門」です。

2017年3月10日、約40年ぶりの大修理を終え、ついに色彩鮮やかに蘇った至宝が一般公開されました。

豪華絢爛な門である陽明門は一日中見ても決して飽きないことから、別名「日暮し門」とも呼ばれ、日本で最も美しい門の一つとされています。



唐銅鳥居

パワースポットとして有名な東照宮の御水舎で手と口を清めて進むと、鳥居がまた出てくる。日本で最初に作られた青銅製の鳥居といい、家光が2000両（現在の貨幣に換算すると1億円くらい）かけて作ったそうです。



唐銅鳥居の前あたり、鳥居の中に陽明門がすっぽり入って見える位置がパワースポットなので、ゆっくり深呼吸するとよいそうです。

唐銅鳥居の北に陽明門があり、本社があり、そして家康公の眠る奥宮があり、パワーの道がまっすぐにつながっている。

唐門（からもん）

全体が胡粉（ごふん）で白く塗られ、「許由と巢父（きょゆうとそうほ）」や「舜帝朝見の儀（しゅんていちょうけんのごぎ）」など細かい彫刻が施されている。



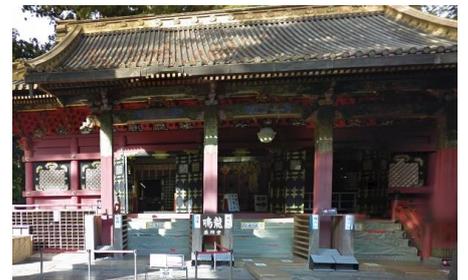
眠り猫（ねむりねこ）

左甚五郎作と伝えられており、牡丹の花に囲まれ日の光を浴び、うたたねをしているところから「日光」に因んで彫られたとも言われている。これより奥宮に通じる。



薬師堂（本地堂）

日光東照宮には「眠り猫」と同じぐらい見逃せない場所がある。それは、天井に龍が描かれている「薬師堂（本地堂）」。
1635年に建造された日光東照宮で最も大きな建物で本尊は薬師瑠璃光如来像。それが理由で薬師堂とも言われている。天井には狩野永真安信が描いた8mにも及ぶ龍の絵がある。



龍の顔の下で拍子木を打つと「キーン」という甲高い音が反響して龍が鳴いているように聞こえるため、「鳴き龍」と呼ばれているそうです。

ただ、拍子を鳴らす場所、顔から離れた場所によっては音が共鳴せず、全く鳴かない場合もある。



【鳴き龍はどうして鳴いているように聞こえるのか？】

良く音が反射する大きな壁(床)が2つ平行に存在していれば「鳴き龍」の現象は起こる。

表面がきれいに磨かれた板は音の反射が良くなり、特に軽いカーブを持った天井のような場合は、より効果的に音が跳ね返る。跳ね返った音が天井と床の間を行ったり来たりするため、干渉しあった重ね合わせ音が何度も聞こえる。人間の耳には「ブーンブーン」という大きく響いた音として聞こえる。薬師堂の天井を良く見ると、重ね合わせ音に最適なお椀の形をしているのがわかる。

下で拍手をした音が床と平行に作られた天井に反射し、ちょうど拍手した高さで強い響きになるよう工夫され設計されている。細かい計算をしなくても体感で音の聞こえ具合がわかるので、精密機械のない当時の大工さんたちにも建造は可能であったと考えられる。(以上)

拝観時間が限られていたので、少し慌ただしさがありましたが、一応予定していたスポットは一通り案内していただき十分堪能できました。本音を言えばあと30分くらい欲しかったけどツアーだから贅沢はいえませんがね。

帰路は、高速道路で新潟まで戻ります。

往路で初夏色の景色を十分堪能したので、復路はスムーズに走れる高速道路で良かったと思っていたら、日光IC入口前でバスはストップ！“日光カステラからお土産「日光四百年かりんとう & レモン牛乳」を渡すのを忘れたので、これからバスまで届ける”というのです。待つこと約15分。もし、既に高速道に乗っていたとしたら…、珍しいハプニングでした。高速道路は、日光・宇都宮道路 ⇒ 宇都宮から東北自動車道です。

【ガイドさんお勧めのお土産】

【東北自動車道 下り】栃木県 那須高原 SA で販売している「御用邸 チーズケーキ(1280円〜)」です。

売り切れることがあるというので、心配していたが、やはり平日ならではでしょうか、有りましたよ！

地元那須高原の新鮮な牛乳をはじめ、上質な原材料を使用して丁寧に手作りされた贅沢スイーツ。クリームチーズには特にこだわりがあり、オリジナルレシピでブレンド。なめらかでコクのある味わいが存分に楽しめるため、「那須高原に来たら必ず購入」というリピーターも多い人気の一品。

自分用に、自分用に、とお土産に買って満足したところで、郡山 ⇒ 磐越道と新潟を目指しバスは快適に走ります。快適走行により、新潟到着時刻は、20:10～20:25 予定でしたが、19:20には着くことができました(まだ明るいので嬉しい)。

「日光見ずして結構と言うことなかれ」

長かった平成大改修が終わり、陽明門がとてもキレイになっていて素晴らしかったです。

今しかない色のキレイで鮮やかなうちに来て良かった。やっぱり、パワースポットな世界遺産でした。

行きは会津～日光間の素朴な街道を走り、日光で本場の湯葉をいただき、カステラを試食し、パワースポット「陽明門」を拝観できました。混み合う観光地や渋滞もなく、充実した一日を過ごさせていただきました。

そして駅南口で下車したうち6名は、すっかり恒例となったハンバヌギで反省会です。

だから「日帰り旅行はやめられない！！」。

参加いただいた会員の皆さんお疲れ様でした♥。

次回は、第1班（牧野班長）幹事の「秋の旅」を楽しみにしています。

その前に、納涼会（幹事：第4班 秋山班長）が7月6日に開催されるので、大勢の皆さまのご参加をお待ち致しております。

それまで、皆様ご機嫌よう ♥ (^_^)〜。

以上

